

第1号議案 令和6(2024)年度 決算報告について

① 事業報告

2025.5.12.

◆ 2024年度 業務報告と課題【事業収支】

障害福祉サービス等事業収益(就労支援事業除く)	R6(2024)年度	R5(2023)年度	増減差額
報酬請求(自立支援給付費/B型、生活訓練、相談支援)	55,085,173	59,631,363	4,546,190↓
補助金(ぷらっと補助金)	19,000,000	18,516,000	484,000↑
公益事業(基幹受託金+スーパーバイザー委託金)	40,401,700	40,299,900	101,800↑
その他の収益	1,520,286	1,613,124	92,838↓
サービス活動事業収益計(就労支援事業除く)	116,007,159	120,060,387	4,053,228↓
サービス活動費用(就労支援事業除く)	114,922,394	137,124,700	22,202,306↓
(うち、人件費)	(86,959,848)	(101,152,400)	14,192,552↓
当期活動増減差額(就労支援事業収益含む)	1,314,287	▲15,776,232	17,090,519↑
次期繰越活動増減差額	80,061,997	78,747,760	1,314,237↑

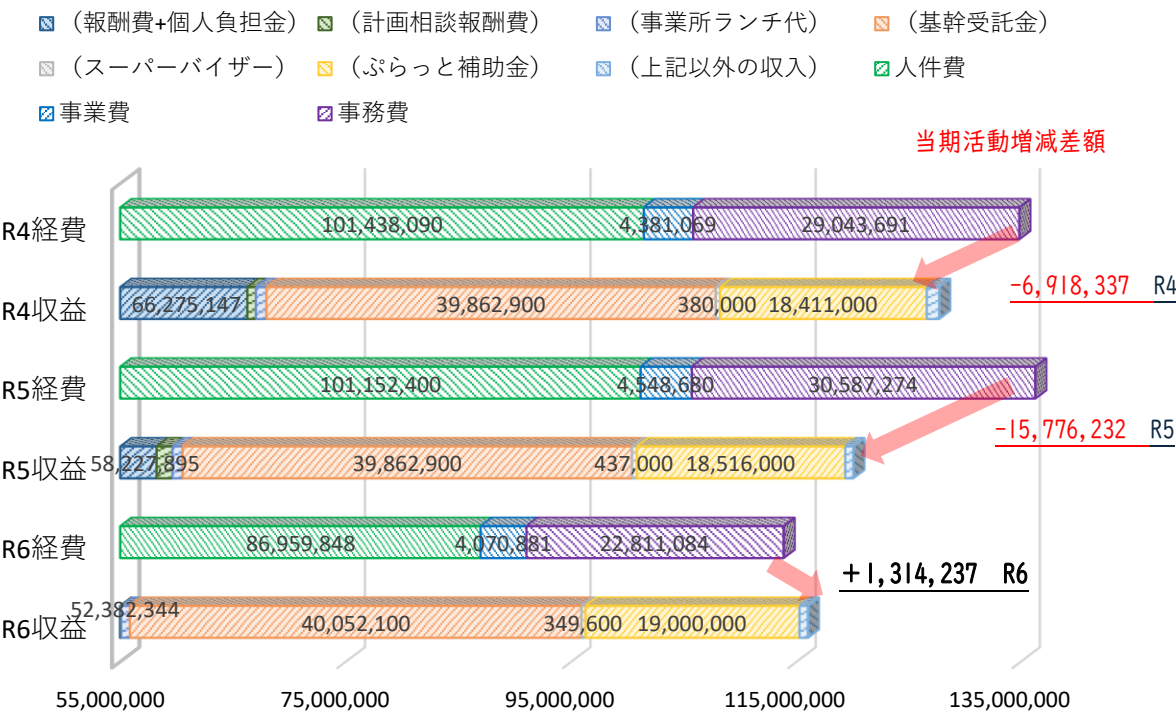
令和6年度において法人構造の再構築に掲げていた、虐待防止委員会及び、身体拘束等の適正化委員会の実施を行い、職員により法人内研修の実施を行うことができた。

また、人材の育成については、法人研修委員会の発足が実施出来ず、引き続き7年度の実施を目標にしていく。そのほか、職員の経験年数、資格のリスト化を行い、経験年数の把握、資格証の法人管理の徹底をし、研修受講の管理を行うことで、人材の計画的な育成のきっかけづくりとなった。

事業所運営の適正化については、相談機能強化を行い、指定特定相談支援の機能強化(I)への変更を行っている。また、ぷらっとを主体とし、地域交流の実施を行うとともに、早良区のネットワークへの参加を行っている。

固定費の削減のため、経費の洗い出しを事務局主体で行い、7年度も引き続き見直しを行っている。

2022～2024年度 事業収支

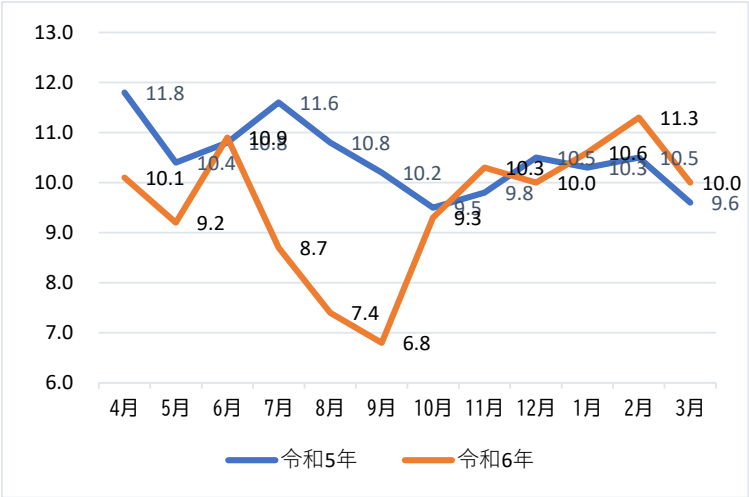


1 日平均利用者数 実績表（就労継続支援B型）

つばめ工房

(人/日)

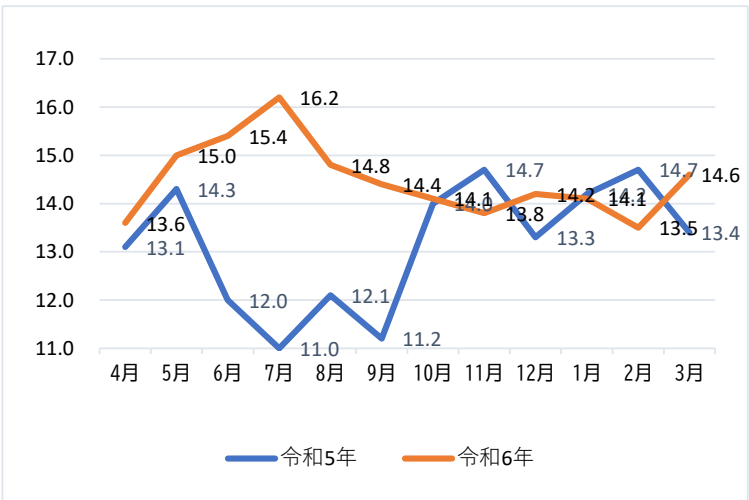
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録数	5 年度	23.0	23.0	23.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	21.0	21.0	
	6 年度	21.0	20.0	21.0	22.0	23.0	22.0	22.0	24.0	24.0	24.0	26.0	25.0	
平均	5 年度	11.8	10.4	10.8	11.6	10.8	10.2	9.5	9.8	10.5	10.3	10.5	9.6	10.5
	6 年度	10.1	9.2	10.9	8.7	7.4	6.8	9.3	10.3	10.0	10.6	11.3	10.0	9.6
内訳	通所	8.7	7.8	9.5	7.8	7.0	5.9	8.2	8.9	8.7	8.8	9.6	8.6	8.3
	在宅支援	1.4	1.4	1.4	0.9	0.4	0.9	1.1	1.4	1.3	1.8	1.7	1.4	1.3



ピアつばめ

(人/日)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録数	5 年度	25.0	25.0	24.0	22.0	22.0	22.0	26.0	27.0	27.0	30.0	31.0	31.0	
	6 年度	32.0	30.0	28.0	28.0	28.0	27.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	21.0	
平均	5 年度	13.1	14.3	12.0	11.0	12.1	11.2	14.0	14.7	13.3	14.2	14.7	13.4	13.2
	6 年度	13.6	15.0	15.4	16.2	14.8	14.4	14.1	13.8	14.2	14.1	13.5	14.6	14.5



令和7年 職員配置

								正職員	嘱託	パートタイム	計
つばめ工房	狩塚	平田	木村	大町	須佐			2	1	2	5
ピアつばめ	神谷	狩塚	鶴田	岸良	森野			3	1	1	5
ぷらっと	田中	篠原	手島	齋藤	森田	熊川		3	1	2	6
基幹	西村	大神	岩田	高瀬	佐伯	荒木	坂本	6		1	7
本部	井上							1			1
								15	3	6	24

令和6年度(2024)事業目標・計画に対する報告(今後の対策)

● 事業目標

- 1. 安心して過ごせる場所の提供と工賃増。
- 2. 職員全体で事業所としての方向性（居場所の機能と工賃増）の共有と支援力を向上させる。
- 3. 通所（在宅ワークを含む）利用者を増やし、安定とバランスの取れた事業運営を行う。

● 事業計画

- 1 「既存利用者の心理的安全の確保」と「新規利用者を受け入れる体制づくり」のために、利用者間での障がい特性等の理解を促進する。→下期より、お茶当番をなくし、掃除を担当制に変更。利用者自身の自主性を尊重する形にするとともに、お互いが協力できる体制にすることで、全体の協調性が良い方向へと変化している。次年度も継続を目指す。個人に合った作業やレクリエーションの提供を行い、利用者の満足度を高め、「明日も行こう」と思える環境作りに努める。→忘年会を行うことで、普段来れていない利用者の通所のきっかけ作りやモチベーションアップに繋がった。下期の移転に伴い、下請け中心から菓子製造を中心とした自主製品の製造販売を主とした事業所とし、工賃（今年度は交通費の増額）増に挑む。→下期は8～9月の移転で授産が稼働せず、工賃増とはならなかった。次年度の課題。受け継がれている温かみを継続。日々の不安や悩みを相談しやすい環境づくりをし、安心できる場所にする。→利用者個々の悩みに誠実に向き合った。就労面での悩みだけではなく、生活面の悩みにも対応した。
- 2 居場所として機能させるための支援方法や、工賃増のために必要な計画や実施方法などを日々共有する。必要となる知識を内外の研修に参加し、職員間で共有する。→上期に退職があり、研修参加が難しかったため、内部研修やOJTで対応した。工賃増に対しては、既存商品の売れ方をみている段階。商品開発は進めている。次年度は商品ラインナップを増やしたい。
- 3 →下期の移転により、ある程度の利用者減が見込まれる。新規利用者確保のため、病院や相談支援事業所の訪問回数を増やす。→移転後、見学希望や、利用希望の問い合わせが増加した。要因としては、シフォンケーキ屋としての周知をチラシやInstagramで行い、事業所の存在を知ってもらえた。利用希望者としては、お菓子作りがしたい人の割合が多いが、軽作業を希望する人もいる。移転による登録者数の減少は1名にとどめられた。この状況を維持したい。→ホームページ（事業所部分）の付け足しとパンフレット作製・配布により魅力発信を行い、事業所への興味・関心を得て利用者数を増やす。→近隣へのチラシ配布やInstagramの運用を行い、発信をしている。今後も継続していく。→送迎希望者の増加が予想されるため、短時間パート又は有償ボランティアでの運転人員の確保を検討・実施する。→上期に続き、送迎人員は収支、雇用条件の検討に終わり、確保ができなかった。次年度に向けては短時間パートの募集内容を検討したい。

授産への取り組み報告

● 活動目標

- ・上期は現状の下請けの精査と整理を行う。長年下請けしている会社の仕事を下期には終了する予定。長きに渡り福祉に理解をしていただいている会社のため、終了に向けては丁寧に交渉を行う。
- ・下期は自主製品（シフォンケーキ、クッキー）の作業分解を行い、利用者の希望する作業を提供し、工賃増を目指す。（今年度は交通費の増額による工賃増が目標）→移転にともない、作業分解し、見直しを行った。クッキー作りの工程を細分化し、今までは軽作業しか出来なかった人も関われるようにしている。次年度は自主製品を増やし、売上が伴うことを目標にしたい。

● 課題

- ・下期に事業所移転があるため移転先での事業展開を検討している。下請けを希望する利用者が一定数いることが予想されるため、最低限の下請けは継続するが、自主製品の製造販売が主となる予定。自主製品事業の拡大に伴い機器購入等の支出が見込まれるため、自主製品販売ルートの開拓が必要。
- ・工賃と交通費の財源確保のため、自主製品の販売促進に関する知識の習得が必要。→初期投資は慎重にしている。10月にオープンしたが、店の売り上げ、委託販売で、移転前と同程度の売り上げを当面の目標にしている。販売促進に向けては引き続き販売ルート、販売方法を検討、実施していく。

● 授産事業内容 ・自主製品…シフォンケーキ、クッキー、押し花作品、アクセサリーの製造と販売

その他報告

● 職員研修

- ・研修機会の確保→オンラインによる配信研修などを活用しながら個々と職員全体のスキルアップを目指す。また地域の研修に積極的に参加しネットワークの構築を行う。
- ・職員個々の目標設定（キャリアパス形成）を行う。→個別に目標設定をし、業務に取り組む。→子育て中の職員に対して、子育て後の働き方も見据えた目標設定を行う。
- ・定期的な職員面談（年2回程度）→職員個々との面談を行い、育成を視野に入れた業務整理と分担を行う。・・・他→下半期の研修は人員配置ぎりぎりで行ったため、思うようにはいかなかった。体制を整え研修、育成を行いたい。

令和6年度 事業目標・計画に対する報告(今後の対策)

● R6 年度事業目標

1 収支のバランスを取り、運営の安定化を第一目標とする

報告 通所者平均17名/日目標→14.6名/日であった。令和5～6年度を通して退所者が多く、登録者21名となっている。
何らかの課題が発生した場合は、適宜面談や全体への働きかけを継続しているが、効果が出にくい場面もある。
令和6年度新規利用者は1名のみであった。問い合わせはあるものの、体験や実利用に結びつきにくい。

2 利用者、職員共に本来の自分を発揮し、生き生きと過ごせる自由で安心できる雰囲気の中を作る

報告 令和5年度作成した「ピアつばめミッション」を継続中。
日常的な会話、声かけを通し、「自身や周りの利用者ができていること」に目を向けてもらうようにした。
作業・役割に取り組みやすくなるように、作業内容や量の調整、役割を立候補制にする等工夫し、
自信につながるようにした。

3 利用者全員に目と心を行き届け、それぞれの事情に添った個別の支援を充実させる

報告 日々の会話や利用状況を見守りながら、必要時は面談等を行い、事業所内・外の支援者と共に支援を検討した。
毎日の職員ミーティングで日々の状況を共有し、必要な支援内容を検討、実行、振り返りを行った。

●R6 年度事業計画

1 生活訓練そらいるの閉所に伴い、B型の定員を14名から20名に増員する

報告 登録者数36名を目標にしていたが、令和6年度は退所者が多く、年度末で登録者21名となっている。
新規利用者獲得は、見学の問い合わせ対応のみとなっている。挨拶回り等の募集活動までは至っていない。
送迎の希望があった場合、現在の送迎利用者への影響や車両定員の考慮して検討したが、実利用まで至らなかった

2 利用者が安定した通所ができるように「行きたくなる事業所」を目指す

報告 日々の会話を重視し、その時の状況や気持ちを把握し、必要な声かけや支援を行った。
利用者の得意・不得意、その時の体調を把握し、自信を持って作業に取り組めるよう作業提供を行った

3 建物の賃借料が高いので、運営の安定化のためにさらに家賃の低い所への転居の検討

報告 令和7年度中に、建物の一部を本部と法人内事業所の書類保管所に変更の上、賃借料を按分し、
負担額を下げる方針。

4 ご家族とのつながりを大切にし、何かあった時にご家族と協力し合える関係を維持する

報告 必要時は、電話や担当者会議等で情報交換を行い、協力し合える関係性が維持できるようにしている

授産・訓練への取り組み報告

● 活動目標と報告

1 自主製品や請負作業を組み合わせて、切れ目なく作業を提供する。

報告 本人の体調や適性、仲間との相性も考慮し、希望も踏まえての作業調整を継続している。
請負作業は帳合を中心に、複数軽作業を請け負い、上記の調整をしながら、負担なく作業に取り組めるようにしている。
既存の自主製品(花たわし・手芸)は、利用者・職員の変化で、対応できる人員が限定的。作成が難しく、在庫販売が中心。

2 B型増加の中にあって、特色のある事業所となる

報告 各作業の進め方、職員の動きを振り返り、独自の作業を検討・導入するための時間的余裕の確保をしていく必要がある。

3 利用者の作業意欲を高める

報告 作業内容や帳合数の共有、結果の振り返りを行い、共通の作業への意識が持てるようにしている。
一部作業や役割に対する立候補制や加算制を現状に合わせ見直した結果、挑戦する利用者が増えてきつつある。

4 出席率の向上

報告 長期欠席者に対し、負担が少ないと思われるタイミングを図り、電話等での支援を行った。退所に至る利用者もいたが、
2名は利用再開に至っている。

● 課題

1 帳合に追われ、新しい作業を検討・導入する時間・人手が不足している。帳合は主な収入源なので、終了は非現実的。

→各作業の進め方、職員の動きを振り返り、独自の作業を検討・導入するための時間的余裕の確保をしていく必要がある。

2 曜日によって、利用者の出席率が変動するため、作業の手が足りない時がある。

→現在の利用者で、通所日数を増やしたい希望があれば、送迎等も含め対応している。

→登録者の減少と、対応できる利用者が少ない作業(主に施設外作業)がある状況が続いている。継続していくために、
新規利用者獲得に向けた活動が必要。

その他報告

● 実習の受け入れ

西南学院大学、麻生医療福祉専門学校等(いずれもぶらっとより依頼)

● 職員研修

虐待防止研修、身体拘束研修、福祉サービス苦情解決従事者研修

● 避難訓練・通報訓練

● 行事

お花見、 クリスマス会、 新年会(マリノアホテル)、メガドンキ/ららぽーと福岡買い物ツアー、福岡市科学館見学

令和6(2024)年度 事業目標・計画に対する報告(今後の対策)

● R6年度事業目標

- ・利用者やそのご家族をはじめ、地域の方、関係機関、ボランティア、職員が互いに繋がり協力することで、利用者が安心して過ごせる温かい居場所をつくり、利用者自身もその役割を自然と担える雰囲気をつくる。

● R6年度事業計画

- ・職員の人員体制を整え、利用者一人ひとりを温かく迎え安心を提供するとともに事業の安定的な運営をはかる。
- ・ボランティアの協力や地域交流、また機関紙等を通して、障がい理解や当事者を取り巻く環境理解を促進する。
- ・家族交流会を継続的に開催し、当事者家族を繋ぎながら、心のケアを行う。
- ・当事者同士が互いに助け合い、支え合うピアサポート活動の充実を促す。
- ・職員は研修を通して障がいの理解、制度の理解、自己理解に努め、次の世代を担う人材の育成にも力を入れる。

▶ 報告

- ・2023年1月以来続いていた人員不足がようやく解消され、10月より安定した運営を行うことができており、多くの利用者と概ね和やかで明るい雰囲気の日々を過ごすことができています。
- ・地域ボランティアさんの協力を得たり、地域のサークル活動に場所を提供するなど、地域との関わりに広がりがあった。
- ・家族交流会にはスタッフ全員が交替で出席し、ご家族の声を傾聴・共感して学びを得ている。
- ・利用者主体でサークル活動や庭の農作物・花壇づくり、清掃活動への多くの利用者の積極的な参加をはじめ、他にも自発的に周囲を助ける行動が多く見られ、利用者同士の支え合いの輪が広がっている。
- ・職員研修を通して障がい理解と地域づくりに努め、実習生の受け入れも積極的に行った。

Ⅰ 型事業への取り組み報告

● 目標・課題

1. 【個別支援の充実】職員を安定的に確保し、いつでも利用者が相談しやすい環境を提供する。相談電話を再開し、ひきこもりがちな利用者への対応も行う。当事者自身が学びや気づきを得る環境づくりに努める。
2. 【地域理解の促進】ボランティアの協力、当事者の地域活動、機関紙での情報発信により障がい理解の促進に努める。
3. 【家族支援の充実】家族交流会の定期的な開催を継続し、孤立しがちな当事者家族の心のケアを行う。
4. 【ピアサポート活動の促進】活動を通して当事者同士が互いに理解し助け合い、支え合う関係づくりを促進する。
5. 【人材育成の強化】職員は、障がい理解、自己理解にも努め、利用者への対応に活かす。人材の育成にも尽力する。

▶ 報告

1. 下半期には職員体制も整い、利用者への丁寧な対応に努めることができた。フリースペースでは利用者同士が会話を楽しめるよう、温かく穏やかな空間づくりに努めた。職員の見守りがある安全な環境の中で、利用者同士が心の内を発信でき、お互いの学びや気づきに繋がった。また、根気強く地道な寄り添いや傾聴といった福祉的支援は、利用者の回復に確かに繋がると感じられる場面もあり、それが職員の更なるモチベーションとなって、職員も励まされ元気づけられた。
2. 現在計9名のボランティアさんが快くご協力くださっている。利用者が育てた野菜とフードバンクさん提供の食材を使って調理ボランティアさんがランチを作ってくださいなど、当事者活動と地域交流の良い取り組みを行うことができた。利用者の提案で畑の野菜配りや地域清掃を行ったり、ぷらっとの様子を機関紙やInstagramで発信するなど障がい理解の促進に努めた。機関紙では他事業所をぷらっとの利用者に紹介する取り組みも行った。NPO法人ドネルモの打診を受けて、利用者への影響を考慮しながら、地域のサークルの受け入れを試みている。
3. これまで決まった職員しか出席していなかった家族交流会に他の職員も参加して、貴重なご家族のお話を伺い大きな学びを得ている。
4. 自助活動としての『つどい』の継続は、利用者同士の繋がりや支え合いに良い影響を及ぼしている。フリースペースでは、困った時や悩んだ時に互いに声をかけあって助け合い、成長し合う様子が見られた。日々の掃除や庭づくりや営繕など、利用者の積極的な協力があった。収穫した野菜や花壇の花々は元気の源となった。ボッチャでは、利用者同士がチームワークをうまく形成し、他事業所とも交流試合を楽しんだ。季節行事に加えてバスハイクも実施し、非日常を味わう楽しみを体験するとともに利用者同士の交流も深まった。ピアスタッフが作成している機関紙での発信力は利用者同士の結束を生み、地域と繋がる大きな力となっている。
5. 連絡会議や実習説明会などに参加し、学校、病院、他福祉事業所との意見交流から、知識やスキル不足に気付く機会が多かった。より良い支援のためにも積極的に研修に参加し、障がい理解や相談支援のスキルアップを図りたい。

その他報告

● 実習生の受入

九州医療福祉専門学校2名、西南学院大学1名（1日実習10名）、久留米大学1名、麻生医療福祉専門学校1名を受け入れた。実習生に精神保健の理解を深めてもらい、専門職の魅力を伝えると同時に職員も改めて学びを深める機会となった。

● 居住サポート事業、その他

一人暮らしの住居探し、転居やその後の生活に関する相談に応じた。最近のグループホームの増加に伴い、見学希望の相談も多かった。相談支援事業所、就労支援事業所等の閉所開所も目立ち、事業所の変更に係る相談も増えた。その他、物価の高騰で厳しい生活を強いられる利用者も多く、食事支援には特に力を入れた。

区ごとのネットワークの構築		区内の相談支援事業所のネットワーク、専門的な指導・助言・人材育成	地域福祉の基盤づくり	緊急時の対応についての取り組み
『西区障がい者等サポートネットワーク』（西サポネット）の運営 【目的】 横のつながり、顔の見える関係を築くことで、日々の支援に役立つネットワーク作りを目指すとともに、ネットワークを活用した地域課題の解決に取り組む。 【令和6年度地域課題】 ①医療的ケア 【目的】 「医療的ケアが必要な方々が安心して地域で生活できる地域づくり」 【活動内容】 年2回の研修を開催予定 →医療的ケア児者の日常を知ること、興味を持ってもらうこと、支援者がつながることで想いや悩みを共有することのできる研修内容。 ②防災 【目的】 「災害時に備えた取り組みを構築する」 【活動内容】 ・事業所同士の情報共有の場を設ける ⇒「西区障害福祉サービス事業所における防災対策研修会（仮）」の開催 ・福祉避難所避難訓練見学（予定） ・個別避難計画・サポートシートの周知 ③発達障がい 【目的】 「相談につながない、つながりにくい大人の発達障がいの方」に着目し、「発達障がい版ゲートキーパー」をテーマとして取り組む。 【活動内容】 研修の実施 研修の狙い⇒相談につながない、つながりにくい大人の発達障がいについて「ともに働くには」という視点で考えることで、発達障がいへの理解を深めるとともに、適切な対応方法を学ぶ。 ④全体会の実施 【目的】 横の繋がりが、顔の見える関係を作る。 【内容】 全体会を通じて、事業種別活動との連動や異なる事業種との連携を深めることを狙いとする。前年度に引きつづき「働きやすい職場って何だろう」をテーマとし開催予定。詳細については検討中。		『区内の相談支援事業所のネットワーク』西区相談あつまろう会の開催 【目的】 (1)相談支援専門員・相談員間の連携強化 (2)相談支援専門員・相談員間の知識・支援力向上 【テーマ】 第1回「今さら聞けない計画相談の話」 (目的) 相談支援専門員・相談員のフォローアップ 第2回・5回「事例検討またはSV」 (目的) 相談支援専門員・相談員のスキルアップ、横のつながりを作る 第3回「クライシスプランについて(エリア)+緊急時拠点の説明」 (目的) 緊急時対応に関連し、緊急時拠点の周知、再周知を行う 第4回第6回「他職種連携による複合課題の検討」 (目的) 支援で必要なネットワークの形成を行う 『専門的な指導・助言』 ケース等相談があった時に、適宜対応する(事例検討、ケース会議参加、助言等) →基幹センターと指定特定の役割分担をし、共同で支援を行う関係の構築を目指す。	『ペアレントメンターカフェ』 ※区部会、ゆうゆうセンター、基幹センターで実施【目的】発達障がいのある子を育てている保護者の孤立防止、気持ちの共有をする場の提供【対象】・西区在住のゆうゆうセンターに相談をしている保護者・西区の通級指導教室、通常学級に通う子の保護者 年3回の開催予定。うち1回通常学級の児童対象。 『ひだまりぐらし』 ※内浜中学校SSW、ひだまりの会、基幹センターにて月に1回実施 【目的】 ・不登校児の居場所づくり ・学校以外での社会参加の場づくり 『精神障がい者にも対応した地域包括ケア』※健康課精神保健福祉係と共同 【対象】 昨年度は、医療(病院、クリニック、訪問看護)、計画相談、GH。企画内容と共に検討。 『権利擁護』 【目的】障がいのある方等の虐待と差別の防止、啓発 【活動内容】 ① 昨年度実施した研修のアーカイブ配信 ② 研修の実施→福岡市障がい者110番専任相談員高次氏を講師とし、「建設的な対話」のポイントを学ぶ。 『地域に向けた活動を行う事業所の把握』 【目的】 地域向けに、以下の目的で取り組みを検討する。 ①障がい特性の理解を深める ③ 地域と相談・支援機関の関係構築 そのため、先行する取り組みを行う事業所や活動内容を把握する。	『防災』 ・個別避難計画・サポートシートの周知 『緊急時受け入れ拠点の周知と、事前登録の推進』 ・西区相談あつまろう会と連動し、計画相談支援事業所に緊急受入の周知と、事前登録の推奨を行う。

① 防災への取り組み	
【取り組み内容】	
1. 防災基礎研修(R4 年作成された防災の意識を高める研修YouTube 配信を継続案内 ○1 回目:視聴回数:336 防災の基礎知識 ○2 回目:視聴回数:180 大雨、台風、気象情報の活用 ○3 回目:視聴回数:154 それぞれに合った避難行動を考える 2. 今津特別支援学校避難訓練見学 ○教頭先生からの取り組みの説明、救護救急班の見学、避難誘導安全確保の見学、蓄電池の使い方等、校長先生の話(熊本地震の話)、防災食・備蓄・防災個人バック見学 3. 防災研修会の実施 ○被災した事業所見学、実際に被災された事業所の話を伺う。(実行委員による) ○被災した事業所の施設浸水被害状況報告、行政からの西区の災害特性と災害状況、啓発情報の共有 ○グループワーク(個々の事業所での取り組みについて)	
【その取り組みの目的・ねらい】	
1. 防災基礎研修 ○防災について考えるきっかけ作り、防災意識を高めるため 2. 今津特別支援学校避難訓練見学 ○今津特別支援学校での取り組みを見学することで何の準備が必要かヒントをもらい、各事業所でできることを考える。 ○福祉避難所の事業所に多数参加をしてもらい、福祉避難所の現状と抱えている問題の把握と福祉避難所同士の交流、関係性作り 3. 防災研修会の実施 ○防災の備えは考えているが、実感がわかないとの意見が多い中、被災された事業所の方の話を聞き、我がごととの意識を持ってもらう	
【結果・成果】	
1. 防災基礎研修 ○定期的に配信することで防災意識を高めることができた 2. 今津特別支援学校避難訓練見学 ○非常時を想定した避難訓練を見学できたことで、漠然としていた「備え」ではなく、具体的に何の準備が必要か考えることに繋がった、参加者の防災意識が高まった ○災害への備えに対する危機感と課題を再確認できた、非常時に対する心構えや現実的な備蓄の内容の実態が理解できた、他の避難所の情報を知ることができた 3. 防災研修会の実施 ○実際の被災体験を聞くことで、我がごととして考えるきっかけとなった。平常時に備えることの大切さを学べた(私のサポートシートの活用、BCP の作成など)	

【今後の取り組み等】 福祉避難所ネットワークについて→年に1～2回集まり、情報共有ができるネットワークをつくる。 防災研修→年に1回、皆の不安を解消できる場をつくる。 地域課題を再度まとめていく。	
② 医療的ケアへの取り組み	
【取り組み内容】 ○第2回西区・早良区医療的ケアネットワーク開催 【テーマ】医療的ケア児者を支える仲間たちとつながろう 【内 容】①事例を通し、各事業所から支援の目的や方法を発表。 ②発表の感想・グループメンバーに聞きたいことについてグループワーク。 ○第3回西区・早良区医療的ケアネットワーク開催 【テーマ】公開インタビュー なるみさんの話を聴こう 【内 容】①医療的ケアが必要な方、家族に登壇してもらい、インタビュー形式で講演。 ②グループワーク	
【その取り組みの目的・ねらい】 社会資源に繋がらない、社会資源が広がらない、社会資源が足りない状況から、「医療的ケアが必要な方々が安心して生活できるための取り組み」「医療的ケアを身近に感じてもらい、支援に興味を持ってくれる人を増やす」「医療的ケア児者の支援に携わっている人の思いや悩みを共有する」ことを目的とした。	
【結果・成果】 ・ネットワークを開催することで興味を持ってもらえる人が増えた。 ・西区早良区に医療的ケアに興味がある支援者がいることを表面化することができた。 ・様々な事業所に参加をしてもらうことができた。違う立場の人たちの繋がりができた。 ・同事業種の別事業所のことを知ることができた。 ・「集まる場所がなかったのも、参加できてよかった。」と参加者からの声をもらった。 ・年齢を重ねることによる変化から、自分たちがこれから行うことの見通しが持てた。 ・就労系など普段の支援では関わりが少ないと予想される事業種別からも参加があった。	
【今後の取り組み等】 ・令和4年度地域課題は制度に関する課題が多く、これを一度終了して「地域でできること」と新たに考えていく。→過去3回のイベントより小規模の企画を考える。協力事業所を広げる。	

③ GHの専門的支援の向上	
【取り組み内容】	
1. GH 検討部会の立ち上げ	
2. 西区内の GH へ地域連携推進会議に関するアンケート集計	
3. 地域連携推進会議における意見交換会の開催	
【その取り組みの目的・ねらい】	
1. GH 検討部会の立ち上げ	GH の数は増えているが実質的な選択肢の広がりに繋がっていないこと、GH 事業所間や地域との連携構築が図りにくいこと、来年度から義務化される地域連携推進会議についてなどの課題を、検討部会だけでなく西区内の GH に参加してもらいながら一緒に検討・解消していく目的。
2. 西区内の GH へ地域連携推進会議に関するアンケート集計	各 GH が地域連携推進会議の準備をどこまで進めているのか状況確認をし、意見交換会で検討するため。
3. 地域連携推進会議における意見交換会の開催	アンケート結果をもとに、地域連携推進会議の実施にあたり不明な事項(会議の内容・準備の仕方・会議参加者など)を GH 検討部会委員と参加した西区内の GH の支援者にて検討・意見交換を行うことで、各事業所の準備状況について共有する目的。 また、事業所同士の顔の見える関係性を作り、今後の支援の協力体制を構築していくため。
【結果・成果】	・GH 検討部会を立ち上げ、西区内の GH が集まる場を設けることで、事業所間の関係性の構築や今後の協力体制作りのきっかけになった。 ・地域連携推進会議の開催における準備状況や困り事などを共有できた。
【今後の取り組み等】	・実際に開催される地域連携推進会議へ参加させてもらう。 ・GH 連携会を作り、西区全体で検討・解決をしていく。また、今後の協力体制づくりを行っていく。
④ 発達障がいへの対応	
【取り組み内容】	
1.発達障がい研修の開催(全 2 回)	
○第 1 回「発達障がいの基礎知識を学ぶ」	
【内容】①ゆうゆうセンターより、大人の発達障がいに関する基礎知識や相談を受ける立場から本人の困り事や職場での困り事について講義。	

②講義を受けての気づき、聞きたいことなどの共有。(グループワーク)	
③質疑応答	
○第 2 回「誰もが働きやすい場を考える」	
【内容】①西区第 1 障がい者基幹相談支援センター職員(当事者)による体験談。 ②講義を受けての気づき、各自のうまくいった取り組みについて共有。(グループワーク)	
【その取り組みの目的・ねらい】	
○相談につながらにくい大人の発達障がいについて、「ともに働くには」という視点で考えることで、発達障がいへの理解を深めるとともに、適切な対応方法を学ぶ。	
【結果・成果】	
○相談につながらにくい大人の発達障がいについて「ともに働くには」という視点での基礎知識に関する講義と、当事者からの立場での発表を組み合わせる研修の手法は、一定の効果を得ることができた。 ⇒・発達障がいの特性や知識を改めて確認、理解をすることができた ・当事者の感覚や困り感が聞けてよかった。参考になった ・業界人の参加だけに限定するのはもったいないと感じた ・自分自身にも同じ思いがあった。今後働く中で「働きやすい場」を考え苦しいことを工夫していきたい と、参加者からの声をいただいた。	
【今後の取り組み等】	
○西区から市へ報告をし、福岡市の協議会へ課題と成果をあげていく。 ○検討部会としての活動は今年度にて終了とする。	